

身体表現遊びの効果的な指導法をさぐる  
—言葉がけの分類に着目して—

塩 崎 みづほ

A study on the effective teaching methods for body expression play  
—focusing on classification of teacher's words—

Mizuho Shiozaki

## はじめに

幼児期は、言葉以上に体を使って思いを伝えるといっても過言ではない。うれしい時は跳びはね、悲しい時・怖い時は泣き、桜の花びらが舞い散っている様子を全身で伝えることもある。幼児期の特徴ともいえる体で思いを伝えられる時にこそ、身体表現遊びを充実させることは、その後の小学校以降への表現活動への橋渡しになるのではないだろうか。しかしながら、現場において身体表現遊びを取り扱う難しさを感じている保育者が多いのも現実のようだ<sup>1) 2)</sup>。幼児教育者養成の指導に携わる者として、今後保育の現場へと進む学生たちにこの活動の重要性と指導法を身に付けてもらうことで、現場での実践が増えていくことを望むばかりである。そのためにも、効果的な身体表現遊びの指導法について構築することは、重要課題のひとつではないかと考えている。

身体表現遊びでは、子どもの自由な発想、伸びやかな動きを引き出すために様々な援助がある。そのなかでも幼児と保育者相互の関わりのひとつとして重要なものに、保育者の言葉がけがあげられる。言葉がけに関する研究では、保育者、幼児相互のやりとりを抜き出し分類化する試みがなされている<sup>3) 4) 5)</sup>。これらを指導にどのように生かしていくかという点を深めていくと、指導法の一手立てになるのではないかと考える。

そこで本研究では、保育者の言葉がけの分類の試案を作成し、身体表現遊びの指導法に生かしていく方法を検討することを目的としている。

## 研究方法

### 1) 表現遊びにおける指導の流れと言葉の分類表作成

幼児と行った身体表現遊びをビデオで撮影した。

活動実施（撮影）日は、2015年11月2日。東京都にあるS幼稚園年長組約20名を対象に筆者が保育を行った。活動名は、『思い出列車』。内容は、子どもたちが今までの幼稚園生活で行った活動や行事の時に描いた絵を題材として、身体表現を行うという活動。実際に使用した絵は、園庭での活動（遊具での遊びや、栗どんぐり拾い、鬼ごっこなど）、遠足で行った水族館、夕涼み会、運動会。ビデオを見ながら、保育者の言葉がけ、子どもの答え（言葉と動き）を抽出し、言葉がけの分類を行った。

### 2) 上記で作成した言葉がけの分類表について検討した。

学生たちによる身体表現遊びの指導実践体験の際に分類表等を活用し、その効果について考察する。6～8人のグループに分かれ、一人が指導者、他は幼児役となる。指導を行う際に一資料として、指導の流れ、言葉がけ分類表を提示し説明をし、言葉や流れを意識して行うよう伝える。実施後、グループ内で活動の振り返りを行う。学生の指導実践の様子と、振り返りでの感想から言葉がけ分類表の活用の仕方について考察を行う。

## 結果

### (1) 言葉の分類

ビデオ分析を行い、資料1のように指導者の言葉と子どもの動きと言葉を抽出した。そこから、遠藤<sup>4)</sup>による分類を参考に、筆者らが分類名や内容について検討し、指導の流れも組み入れ、以下のように分類を試みた<sup>6)</sup>。

表1 言葉がけの分類表(筆者改変)

記号	分類	内容
a	問う	具体的な答えを引き出す
b	誘う	一緒にやろうと誘ったり、保育者の気持ちを伝えたりする
c	イメージを広げる	表現したいものの特徴に気付かせ、イメージを広げる
d	動きの発見	擬音・擬態・擬声語や、動きが広がるような言葉で、新しい動きを誘う
e	展開	活動の切り替えを提案する
f	動きを言葉にする	幼児の動きを言葉で表す
g	共感・承認	子どもの動きを見つけてほめることで、自信をもたせたり、友達 の動きに気付かせ、新しい動きの発見につなげる

#### a 問う

絵を指さして「これなあに？」と聞き、「水族館！」などのように具体的な答えを誘導する質問の言葉がけである。活動に入る前にこれをやるんだよ！という興味付けになるいわゆる発問的な役割を持っている。聞き方にも「栗拾いできるの?」「この穴から出るの?」などのように、子どもたちが答えやすいように聞くことが大切である。このやりとりが子どもたちの心をほぐし、活動に入るきっかけになるものと見て取れる。

#### b 誘う

「栗拾いしたいな～」「栗やドングリになってくれるかな」といった、変身する気持ちを誘う言葉である。さまざまな言い方が考えられるが、子どもたちが変身したいという気持ちをもってもらえるような言葉選びが重要になると考えられる。

#### c イメージを広げる

変身しようと思ってもどんなものになろうかな、どんな形になろうかなと悩んでしまう子どももいる。そのものもっている形や動きなどを子どもたちに問いかけながら、引き出していく言葉がけになる。今回の活動では、宝取り鬼のシーンの箇所で、「どんなところが好きかな?」と問いかけ、子どもたちの答えを拾いながら、「宝とるところかな? 守るところ? 走って逃げるところ? きゃあっ

てタッチするところが面白い？」などどんな動きが考えられるか出し合うことで、宝取り鬼のイメージが広がり、次の活動へスムーズに移行できる。導入段階においても重要な言葉がけのひとつといえる。

#### d 動きの発見

「ひゅ～と風が吹いてきたよ」「お魚さんひゅ～ん」など、擬音語や擬態語などを使って、動きが広がったり、新しい動きを発見できたりするように誘う言葉。こういった言葉の工夫によって動きが大きくなったり、イメージしやすくなったりすると考えられる。今回は非常に少なかった言葉がけのひとつであった。

#### e 展開

「もういいかい?」「もういいよ～」など、変身するきっかけに使う言葉がけである。今回の活動では、実際に体験した活動であったため、その再現をやりやすくするための言葉がけに留意していた様子が伺える。「ビデオ撮るよ」や「カメラで撮影するよ」といった言葉が多く使われていた。これらの言葉がけの意図としては、ビデオ撮影することで動き続けることをも考慮して使用した。自分の活動を撮ってほしいという思いもあるので、来るまでずっとその動きをし続けている子どもの姿が見られた。また、ただ走り回るなどといった同じような動きばかりが出そうなものについては、「カメラで撮るよ」という言葉がけにすることでストップモーションすなわちポーズの動きを取り入れる工夫をし、動きにバリエーションが出るようにした。活動にいよいよ入るといときの言葉がけは、それぞれの題材にあったものを選ぶことが大切であり、子どもをその気にさせるための魔法の言葉をいくつか考えておく必要があることに気付いた。また、ドングリや落ち葉のようになかなか動きが広がらない場合は、「風が吹いてきた～」などといった言葉がけによって、子どもたちの動きに広がりが出た。こうした場面の切り替えや動きの切り替えの言葉がけは、動きの発展にも重要な役割をもつことがわかった。

#### f 動きを言葉にする

「ウツボかな？」など子どもの動きを言葉で表すことで、その子どもの思いをくみ取ってあげることになり、共感することにつながる言葉がけになる。この際、必要に応じて子どもたちの体に触れながら問うことで、子どもの楽しさ、待ち遠しさが増している様子が見てとれた。言葉がけをしながら、触れることは、「次私に触ってもらいたいな」という子どもたちにとって動き続けるきっかけにもなったようだ。また、触られた子は認めてもらえたうれしさと同時に、「エイ！」と触られて動きだしたりすることから、動きの広がりにもつながっていた。

#### g 共感・承認

子どもたちみんなで共感したい、動きとしてよいなあという子どもに対して使っていた言葉がけ

を指している。この言葉がけによって、他の子どもたちの動きに工夫がでたり、次に声をかけてもらいたいと思い、動き続けようという気持ちにつながっている様子を見ることができた。また、仲間の動きを見ることで、他者の存在を認め共感するきっかけになる。表現遊びにおいて、重要な言葉がけであり、大切な時間であるだろう。

## (2) 指導の流れ

身体表現遊びにおける導入から展開の流れを以下の表のようにまとめた。そして、その時々での主な言葉がけについて、上記の分類表の記号と対応させた。

表2 指導の流れと言葉がけとの対応表<sup>6)</sup>

指導の流れ		内容	分類表内の記号
導入	①	様々な環境との関わりで、感動・気付き・発見・心が動かされ、表現したい気持ちにさせる	a・b
	②	表現したいことの特徴に気付かせる	c・d
展開	③	題材になりきる、表現体になる⇒動き出しのきっかけ	e
	④	表現体になりきって動き続ける(動きの反復・動きのリズム) = 子どもの動きを言葉にしてほめる・認める	d・f
	⑤	題材の違った面に気付かせる、子どもが気付かない側面に気付かせる←工夫ある子どもの動きを見つけ、他児に気付かせる	g

上記のような一連の流れを頭に入れて活動することで、スムーズに活動が進んでいく様子を見ることができた。題材によっては、この流れを繰り返し行いながら、一つの活動が成り立つものもあることに気付いた。そして、どの場面においても保育者と子どもとの言葉や動きでのやりとりが行われており、相互関係の重要性を見て取ることができた。

## (3) 学生の実践後の討議から

6～8人のグループに分かれ、それぞれ題材を決め、一人1回先生役を体験してみるという実践を行った。その実践後、それぞれのグループごとに話し合う内容を以下の3点に絞り振り返りを行った。出た意見を以下にまとめた。

### ① 表現遊びの指導をして気付いたこと

#### ●言葉がけに関するもの

- ・興味をもたせる言い方を考えるのが難しかった
  - ・やりたくなるような言葉がけの難しさ
  - ・子ども一人一人に声をかけることが大切(子ども役のとき、声をかけられると嬉しかった)
- (子どもの反応に関するもの)

- ・子ども（役）の反応を拾うのが大変

●指導全般に関するもの

- ・思い通りにいかない
- ・見通しをもった指導の大切さ
- ・スキンシップがとれる
- ・指導者の動きを大きくすることが大切（思っているより小さかった）
- ・いろいろな動きを想定することが必要

② 意識した言葉がけ

- ・誘導→質問→イメージを膨らませる→表現を膨らませる、といった流れの中での言葉を工夫した
- ・疑問系で投げかけ、答えが返ってくるようにした
- ・「魔法をかけるよ」など楽しくなる言葉を考えた
- ・子どもの動きを指導者が真似しながらほめた
- ・動き続けられるようなその動きにあった言葉がけ
- ・忍者風な言い回しにした

③ 表現遊びは難しいですか？

全グループ共に「はい」と回答

●難しいと感じた理由

- ・どうしたら興味をもってくれるのか、楽しんでくれるのか考えながらの言葉がけが難しかった
- ・ほめ方の言葉のバリエーションがとっさに思い浮かばない
- ・毎回異なる、思い通りにいかない
- ・流れがうまくいかない
- ・予想を超える子どもの動きをどうくみ取るか
- ・つなぎ方が難しい
- ・題材が決まっても指導の流れや言葉をどのようにしたらよいか思い浮かばなかった
- ・言葉をかけ、音楽をかけ、子どもたちの動きを見て、などやることが多くて大変

実際にやってみることで気づいたことが多くあり、こうした実践そして振り返りの大切さを再確認できた。一方、どのグループにおいても戸惑ってまったくできない、動きが出てこないという指導は見られなかった。指導者役の学生は、常に問いかけることを意識しており、特にイメージを広げる言葉がけ、共感してあげる言葉がけについてよく考えて行っていた。以前にも、このような指導体験を行ってきたが、言葉がけ分類表を提示したのは今回が初めてであった。このように具体的な指導法の手立てとなるものを示すことは、効果があることがわかった。

## まとめと課題

- (1) 身体表現活動では、問いかけ⇔引き出す の繰り返しが行われており、指導の特徴であることがわかった。(問いかけとは、言葉だけではなく、動きも含めて子どもたちに働きかけているという意味で使用した) 言葉がけの分類も試案ではあるが、指導の流れに沿って効果的な言葉がけがあるということが明らかになったといえる。一方、分類名が固くて理解しがたい点や分類内容にも一考の余地があり、今後は多くの事例の分析をし、研究を深めていきたい。
- (2) 今回は言葉がけに着目をし、主に言葉の抽出を行ってきたが、保育者の声の大きさや抑揚、保育者の動きなども生き生きとした活動に重要な要素であることも再確認できた。これらも指導法において大切であるため、その行い方を学生や指導者に示すことができるような教材の開発を行いたい。
- (3) 今回の話し合いなどから、学生たちがこれらの活動を目の当たりに見た経験、自分がやった経験が不足していると感じた。授業内において活動経験、指導体験を盛り込むことの必要性が見出された。その際、言葉がけの分類表を使うことで、指導法の手立てとなる事も見て取ることができた。活用法についてさらに研究を進めていきたい。
- (4) 指導体験後、身体表現遊びの指導の難しさを感じている学生がほとんどであった。もっと明確な、やりやすいと思えるような資料の提示が必要であると感じた。言葉がけの分類にとどまらず、実際にどんな言葉がけをしたらよいのか、どんな言い方がいいのか、指導者の動きはどうするかなどを事前に考え、見通しをもった指導に臨むことができるような、身体表現遊びのための指導案シートの作成を目指したいと考えている。

資料 保育者の言葉と幼児のこたえ

流れ	保育者の言葉	幼児の動きと言葉
①	<u>a 「これなあに？」</u> 先生これすごくやってみたい。 <u>a S 幼稚園で、栗拾えるの？ b 栗拾いしたいなあ。 c どんぐりもほしいし、落ち葉ほしいし。みんな楽しかった？ b 先生やりたいなあ。</u>	「落ち葉」「人間」「バッタ」「飛行機」
②	<u>b 栗とかどんぐりとかにみんななってくれるかな？ e 先生、目つぶってるよ。 c 先生拾いに行くからね。</u>	「いいよ～」 喜んで「キヤーキヤー」とホール中に散らばっていく。思い思いの動きをする
③	<u>e もういいかい？</u>	「もういいよ」
④	<u>e 目をあけるよ。これから栗拾い、行ってみよう。いろいろある！うわ～楽しそう。これは葉っぱかな？ f これは栗かな？ あっ痛い。 f 虫かな？ 虫動いてる、エイ！これはどんぐりかな、 d とっちゃお。」</u> 「痛い、栗だった、栗だった。」 ひとりずつ触って聞いて回る <u>f 「これも虫だったのかな？これは何かな？」</u> <u>d 「どんぐりパカッ」と幼児の両手を広げて動かし、「何か出てきた」</u>	ポーズをとったまま保育者や周りの友達をみている 小さい声で「葉っぱ」「どんぐり」などとこたえる
⑤	<u>e 風がふいてきたよ～ どんぐりさん、くりさん 風に揺れるよ d ひゅ～ 今度はこっちから ひゅ～ 中から栗がポンと出てきたね</u> 「先生たくさん拾えたよ。ほらこれ見てごらん。 <u>d 風に乗って先生のところまできてごらん。 g ここ見て！足があがっててかっこいいね。楽しかったな。</u>	保育者が近づくと、嬉しそうに反応する。モゾモゾ動いたり、栗のイガでつつく動きなどいろいろと動く。保育者の一つ一つの反応や友達の動きを面白そうに見ている 保育者に近づいていく子もいる 中から出てくるような動きをする
①	<u>e さあ、列車にのって出発します。♪おもいでれっしゃ～でしゅっぱつだ！</u> <u>a ここは？</u> <u>f 水族館、サンシャインなんだ～ a これは？</u>	風に吹かれるように体を動かし、転がり始める 少しずつ転がったり、頭を床にくっつけて這うように動いたり、いろいろな動きをする 転がったり、足を開いたり、足を上げたり 様々な動きをしている
②	<u>a ここから出てくるの？これは？ぐわ～！これは？くらげ</u> <u>b 先生水族館に行っていないの。</u> <u>b 先生行きたいなあ。</u>	2列に並んで楽しそうに動く、ホッポ～と言いながら手をあげながら、一緒に歌う 「水族館」、「サンシャイン」 「チンナアナゴ」  「いいよいいよ～！」

<p>③ <u>e 先生ビデオ持ってきたんだ。</u> <u>c 水族館のおさかなさん、クラゲでもいいよ。</u> <u>d 先生ビデオもっていくからね。</u></p>	<p>「キャ～」とあちこちに散らばり、泳ぐ動きをしたり、体をクネクネと動かししたり、海底にもぐるような動きをしたりする。</p>
<p>④ <u>f うわ、これ速い!</u> 先生かわす</p>	<p>「ぐわ～さめだ～」 チンアナゴがもぐっているうごきをしたり、這ってる動き、隠れたような動きをしている子どもがいる</p>
<p>⑤ <u>g ほら見てこれかわいい、</u> <u>f ウツボもいる</u> <u>a 寝っ転がってるのはなあに</u> <u>f チンアナゴがもぐってるんだって。</u> <u>d おさかなさん、ひゅ～ん ひゅ～ん</u> <u>e おさかなさんになって先生のところまできて。</u></p>	<p>「チンアナゴがもぐってるの」 友達と一緒につながって動く子、向かい合って出会いや戦いのような動きをする子もいる。</p>
<p>① <u>e さあ、列車にのろう!</u>♪おもいでれっしゃ～</p>	<p>思い思いの魚になって2列になる 保育者と一緒に歌いながら動く</p>
<p>② <u>a 「これは？」</u> 「宝取り鬼興味あるんだ。私、僕ここが一番好きっていうところ、<u>b 先生写真撮りたいから教えて。</u> <u>a どんどころが好きかな？」</u> <u>「c 宝とるところかな？守るところ？走って逃げるところ？きゃあってタッチするところが面白い？先生ここすっごくおもしろいところなのっていうところ、教えて</u></p>	<p>「逃げてるの」「逃走中」  「逃げるどころ」「宝とるところ」「つかまえるところ」</p>
<p>③ <u>e 宝取り鬼のここ一番面白いところ、み～せ～て カシャ</u></p>	<p>「ワ～」と一斉にホールに広がり、思い思いのポーズをする。宝をとって手をあげているポーズ、床に転がって転んでしまった時のポーズ、2人組でタッチして捕まえているところや、助けているところのポーズなど、人数も動きも様々。保育者が尋ねると、ポーズをしたまま答える。友達の動きもポーズをしたまま見ている。</p>
<p>④ <u>「すごいぞ、f 宝を撮ろうとしてるところ、a</u> <u>これは、f 走ってるところ、ここもすごい、</u> <u>宝とろうとしているところ、aここは？f 逃げ</u></p>	<p>など、人数も動きも様々。保育者が尋ねると、ポーズをしたまま答える。友達の動きもポーズをしたまま見ている。</p>
<p>⑤ <u>るところか～。aここは？g あんなちゃん、助けようとしてたんだって。宝とってるからタッチして捕まえようとしているところ。g かつこいい、そうかそうか、f わかったよ宝を取りに行くんだね。</u></p>	<p></p>

## 参考文献

- 1) 松山由美子他(2011) 身体用言の指導の現状に関する調査(2)～保育者の「表現」における悩みより. 日本保育学会第64回大会研究論文集 p.449
- 2) 塩崎みづほ(2016) 幼児分科会わくわくはずむ問いかけ～みんなで楽しく～. 第49回全国女子体育研究大会東京大会報告書. Pp.24-27
- 3) 小川鮎子他(2013) 幼児の身体表現活動を引き出す言葉かけ－オノマトペを用いた動きとイメージ. 佐賀女子短期大学研究紀要(47). P.103-116
- 4) 遠藤晶(2014) 身体表現遊びにおける保育者と幼児の相互作用を高める指導－保育者の「言葉かけ」に着目して－. 武庫川女子大学大学院教育学研究論集(9). pp. 1-8
- 5) 瀧信子他(2011) 幼児の身体表現活動を支える言葉かけについて. 福岡こども短期大学研究紀要(22). pp.19-31
- 6) 塩崎みづほ他(2016) 幼児の身体表現活動における言葉かけに関する研究. 第69回日本保育学会要旨集
- 7) 塩崎みづほ他(2015) 幼児部会 わくわくはずむ問いかけ～みんなで楽しく～. 第49回全国女子体育研究大会東京大会紀要 pp.36-52